



捨てられない T シャツ

都筑響一編 筑摩書房 2017

みなさんは、ふだんおうちにいるときやおやすみの日、Tシャツを着ますか？

Tシャツ1枚だけでサラリと着こなすちゃう人、あこがれちゃいますが、わたしは実は、Tシャツをあまり持っていません。(自分には似合っていないような気がして...好きなバンドのLIVETシャツくらいかなあ、LIVETシャツはたしかに捨てられない1枚かも...!)ユニクロのUTやボックスロゴTシャツなど、いろんなブランドとのコラボや、最近では自分でデザインして印刷ができるおしゃれなTシャツなども...。また、聖おにいさんのブツとイエスの漢字や言葉Tシャツや、最近引退を発表したイチローがよく着ていた、見たら思わず笑ってしまうようなロゴがプリントされたいわゆるネタTもありますね。Tシャツにはりついた根性ガエル(古いかな?知らない子もいるのかな?)もいますね!こんな風に世の中にはさまざまなTシャツがあふれています。そして、そのTシャツのプリントやデザインというのは、ファッションアイコンにもなるし、その人の第一印象にもなってしまうかねない主張を持っているとわたしは思います。この本の中でもTシャツはコミュニケーションツールだという人もいました。今月はそんなTシャツの本を紹介します。この本は、題名のとおり、「捨てられない」Tシャツ。一言で捨てられないといっても、まだまだ愛用中で捨てられないという人はもちろん、今は着てないけれど、どうしても捨てられないという人、そのどうしても捨てられない理由がみなさんいろいろあるわけで...なぜ捨てられないかという理由が、その実際のTシャツとともに載っている1冊。実際の愛用したTシャツなだけあって、なかには、シミがあったり、汚れていたり、黒ずんでいたり、ヨレヨレのものだったり...でもそれには、全部理由があって、捨てられない理由の一つなんです。(表紙になっているTシャツもなかなかの使用感で物語がつまってそうですよ!)そのTシャツを見るだけで、当時の記憶が蘇ってくる...当時過ごした生活の残り香までシミや汚れとともに吸収してるんでしょね!Tシャツのデザインもいまはもう絶対に手には入らなそうなものから、自分で描いたもの、有名ブランドのものや元あるプリントやデザインに自分で手を加えちゃったものまで!手放したらもう一生手に入らないデザインも、捨てられない理由の一つですね!アメリカの小説家ポール・オースターのラジオ番組に視聴者から送ってもらった実話(おはなしや体験)を読む『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』という番組があるそうなのですが、これはそのTシャツ版で、いろんな年の、場所の、職業の、性別のみんなのTシャツにまつわる実話がつまっています。名前は掲載されていないのですが、職業や捨てられない理由をよくよく読めばなかにはずいぶん有名な方のTシャツものっていたり...これ、あの人のTシャツなのでは?そんな発見もおもしろい一冊です。人それぞれの捨てられない理由を読んでいると、なかにはホロリ、とくるものもあって...。Tシャツてなんだかいいなあと思いました。この本の中で、自分の捨てられないTシャツのことを「皮膚に近い存在」とたとえてる方がいらっしゃいましたが、使用感たっぷりの思い出がつまったTシャツって、もう、ひとつの歴史的な芸術作品だなあとさえ、写真をみながら感じました。

普段あまりTシャツを着ないわたしですが、この本を読んでいると、わたしもそんなTシャツに出会ってみたいなあと思ってしまいました。みなさんは、思い入れのある捨てられないTシャツってありますか?これから涼しくなる季節、今持っている、愛用しているTシャツ、

これから出会うTシャツももしかしたら将来
捨てられないTシャツになるかもしれませんね。